

情報共有

3枚

(非管理メモ)

官邸, MISA班 ← プレス対応チーム

東京電力株式会社

9/8 19:50

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

取扱注意 公開不可

日時：平成 23 年 8 月 8 日 (月) 11:00~11:30

場所：東京電力本館 3 階大会議室

先方：記者約 25 名 (カメラ 3 台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：

- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (8月8日 6:00 現在)
- ・ 淡水化装置概略系統図
- ・ 福島第一原子力発電所 3号機起動用変圧器ダクトからのコントロール建屋への漏水について

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. 本日の朝日新聞において、「3月 21 日頃に福島第一原子力発電所 3号機で炉心が再熔融し、原子炉圧力容器から格納容器に落下した可能性がある」との報道があった。データによると 3月 20 日までは 3号機原子炉内への 1 日あたりの注水量が 300 t 程度だが、21 日以降は崩壊熱の除去に必要な注水量の 11~32% 程度しか入っていなかったと掲載しているが、この件について東電としての見解を教えてください。

A. プラントパラメータで公表している通り、3月 21 日頃に原子炉への注水量が一時的に低下しているのは事実である。またドライウェルの圧力、原子炉圧力容器の圧力が一時的に上昇していることも確認している。圧力が上昇したのは、格納容器のベントラインで弁が一時的に閉まったが、それとほぼ同じ動きをしていると考えている。すなわち、ベントラインの弁が閉まることにより格納容器、圧力容器の圧力が上って、その後ベント弁が開いたことによってそれぞれの圧力が低下したと思われる。(※原子炉圧力、格納容器圧力については、ともに、3月 20 日~21 日に上昇しており、その要因はベント操作で 3月 19 日 11 時 30 分に「閉」、3月 20 日 11 時 25 分に「開」操作をしていることによると当社は考えている。)

原子炉の状況は今のところははっきり分かっていないが、これまでのパラメータの分析から考えると、水量の変化によって圧力容器の温度が増減することから、発熱源である損傷した燃料は圧力容器の底部にほとんど溜まっていると考えている。黒い煙についてはコアコンクリート反応かどうかという話があるが、まだ建物の 3 階、4 階が調査できていないため、はっきり正体がかためておらず、今後調査する必要があると考えている。4号機の火災と同様に潤滑油、もしくはゴムが燃えたと可能性もあろうかと思うが、現時点では原因は判明しておらず、当社として再熔融したという明確な判断はしていない。

Q. コントロール建屋の漏水について詳しく教えていただきたい。

A. 主変圧器と起動用変圧器があり、その二つとタービン建屋の方に電線管を引き込むダクトがあるが、そのダクト部分に深いところで1.5m、浅いところで1.0m程の水が溜まっていた。ダクトに溜まっている水の水位が上昇したことにより開口部から3号機のコントロール建屋側に水が入ったと推定している。

漏水量としては評価中だが、コントロール建屋側の水深は約10cmである。コントロール建屋側の隣がタービン建屋であることから、タービン建屋へ溜まり水を排出した。

Q. コントロール建屋の開口部は地下1階にあるのか。

A. 正確には、地上と地下1階との中間部である中地下1階である。

Q. 漏水によって機器への影響はないのか。

A. 床面そのものには何も機器は設置していないので特段故障等の支障はない。また電源ケーブルも現在は使用していないので特に問題はない。

Q. 現在も開口部からの漏えいは続いているのか。

A. 漏洩そのものは止められていないため、ダクトの水位が開口部を上回れば漏水する可能性はある。従って現在ダクトに溜まっている水を一部抜いて止水を行いたいと考えている。

Q. 止水工事を実施するまでは漏水した水をタービン建屋へ排出するという認識でよいか。

A. その通り。

Q. 環境への影響はないとのことだが、その理由はタービン建屋へ汚染水を排出しているからということか。

A. ダクトに溜まっている水の濃度は 10^0Bq/cm^3 のレベルであり、地下水で観測されているレベルと同等である。また汚染水をタービン建屋排出していることから、環境中への影響はないと判断している。

Q. ダクトに溜まっている水は原子炉に注水したような高濃度な水ではなく、津波により溜まった水と考えて良いか。

A. 海水ほどではないが塩素濃度も3900ppmであることから、海水が浸入してきたところに、雨水や地下水が主変圧器ケーブルダクト、起動用変圧器ケーブルダクトへ流入したことにより水かさが増し、開口部を乗り越えたものと考えている。

Q. 1号機の使用済燃料プール循環冷却について、本日2次系のテストランとのことだが、試運転は予定通り8月10日ということによいか。

A. 本日2次系のテストランが問題なく終了したら明日1次系のテストランを行う予定。特段トラブルが発生しなければ10日には試運転ができると思う。

Q. 以前セシウム吸着装置のH3スキッドのポンプが停止した際には、水処理システム

の処理量に影響がないとの説明だったが、本日水処理システムの流量が $46\text{m}^3/\text{h}$ に低下しているのは、Hスキッドの1系統が止まっているのが原因ということでしょうか。また水処理設備の処理量が $50\text{m}^3/\text{h}$ に戻る目安はどの程度か。

A. 7月29日にH3スキッドのNo. 2ポンプが停止した際は、その上流にあるSMZベッセルのポンプは起動しており、その余力である程度流量が確保されていたことから、水処理設備全体で $50\text{m}^3/\text{h}$ の処理量が出ていた。今回はHベッセルのポンプに加え、SMZベッセルポンプも停止したことから、No. 3の系列についてはほとんど流れていないと考えている。No. 3以外の系統については定格流量以上の流量が確保されていることから、現在の流量は $46\text{m}^3/\text{h}$ となっているものと考えている。

Q. 本日雑固体廃棄物減容処理建屋からプロセス主建屋への移送を計画しているが、今回の移送でプロセス主建屋の水位がどの程度上がると想定しているか。

A. プロセス主建屋へ移送している2, 3号機タービン建屋の溜まり水はそれぞれ $20\text{m}^3/\text{h}$ であり、合計で $40\text{m}^3/\text{h}$ の水がプロセス主建屋に流入する。先日まで水処理システムの処理量が $37\text{m}^3/\text{h}$ であったことから、プロセス主建屋の水位は上昇傾向であったが、現在の処理量であれば、プロセス主建屋の水位は下がると考えている。従ってプロセス主建屋の水位を注視しながら雑固体廃棄物減容処理建屋からの移送を行っていきたい。

Q. 8月4日に3号起変ダクトからコントロール建屋漏水が漏水していることを確認したにもかかわらず、どうして公表日が本日になったのか。

A. 中地下1階にはケーブルトレイが走っており、どの部分から漏水しているのか確認するのに時間がかかり公表が本日となった。4日時点でコントロール建屋への漏水が確認できていたことから5日に排水作業を行ったが、漏水箇所がトレイの奥まった部分であったため漏水箇所の特定に時間を要したものの。

Q. 水漏れ等のトラブルが発生した場合には、原因調査中でも速やかに公表して頂きたい。

A. そのように努力したい。

Q. 本日東京電力から東北電力への電力融通があるとのことだが、詳細を教えてください。

A. 本日東北電力管内の需給が逼迫していることから、80万Kwの融通を実施している。

以上